
青蘭学園生徒会日誌

蝴蝶

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

青蘭学園生徒会日誌

【Nコード】

N1431Z

【作者名】

蝴蝶

【あらすじ】

容姿端麗・成績優秀で学園の憧れの的の生徒会長。そして会長が大好きすぎるちよつと変わった生徒会メンバー。そんな彼らの日常を切り取った物語。

1 ページ目 (1)

私立青蘭学園は幼稚園から大学院まであり、県で1、2を争うほどの偏差値を誇る学園。

普通科や芸能科、はたまた農耕科など学科も多くまさに大衆の憧れの的である。

そして絶大な人気を誇るこの学園の高等部生徒会長、ふじつき さくや藤月咲夜。

彼女が大きな溜め息をつくとき隣で作業をしていた黒髪の少年が顔をあげる。

「咲夜。何か悩み事？」

そっけない言葉だが彼女を心配しているのが声音からでも感じ取れる。

彼は生徒会副会長、ゆづき れんや結城蓮也。

彼も咲夜も完璧すぎる程に整った顔立ちをしている。

二人だけでなく生徒会のメンバーは美形揃いなこと有名だ。

「悩み事…ねえ。どうなんだろう。」

「…なにそれ。」

「…蓮也、私の髪の色って変かな？」

咲夜はとても綺麗な銀髪だ。

別に染めているわけでは無いのだがまわりとは違うので結構気にしているらしい。

「蓮也みたいな色がよかった…。」

そついつて髪をいじる咲夜。

少し拗ねた様な表情がとても可愛らしい。

生徒会長として人前にでている時とは大違いだ。

そんな咲夜を見て蓮也は頬を染める。

彼は咲夜のこと好きなのだ。

光をつけて輝く美しい銀髪も彼は好いている。

「…っ！駄目だっ！咲夜はそのままのほうがっ…」

つい大声を出してしまった自分に気づき余計に顔が赤く染まった。
生徒会室にいるのが二人だけでよかったとつくづく思う。

「本当に？」

そう言つて咲夜は首をかしげる。

子供のようで本当に愛らしい。

そんな咲夜をみられるのは生徒会に所属している者だけだ。

声を荒げてしまったことへの羞恥より愛おしいという感覚がおしよせてくる。

「ああ。本当に。」

それを聞いた咲夜はとても嬉しそうに微笑んだ。

彼女が笑うとまわりに華が咲いているかのような気になる。

今日は生徒会の他のメンバーが来なければいいのに、とさえ思った。

咲夜の髪に触れようと手を伸ばした瞬間。

お約束の展開。

邪魔が入ってしまった。

1 ページ目 (2) S i d e 蓮 也 (前書き)

亀更新ですが2話目にまいりましたっ！

こんな作品みてくれる人に感謝感謝ですw

1 ページ目 (2) Side 蓮也

「あたしの可愛いさつきゅんに何してるのかな副会長っ!」

生徒会室に入ってくるなり危ない発言を大声でしたのは三好帆香。みよし ほのか

俺の天敵の1人であり生徒会書記。

甘い物が好きでスクバの中にはお菓子がぎっしり…という噂が存在している。

そして女なのに女が好きだという噂も存在する。

だが、それは噂ではなくまぎれもない事実。

「さつきゅんっ! 蓮也に襲われそうになってたんだね? かわいそうに…。」

でもあたしが守ってあげるからっ! …今すぐ結婚しよう! …!」

「何言ってるんだっ! 咲夜は俺と…!」

「女同士で結婚はできないんだよ。」

また感情にまかせて発言をしてしまったことに後悔した。

今俺は絶対に顔が赤いだろう。

というか俺は襲ってなんかいない。

咲夜のあの綺麗な髪に触ろうとしたただけだ。

それにしてもあの発言を普通に返せる咲夜がすごい。

そんなちよつとそっけない所も咲夜の魅力の一つなのだが。

「何言ってるのかな? 会長は僕のだよ?」

…でた。もう一人の天敵北原颯斗。
生徒会会計…で女好き。

「会長。今度僕とデートしない？」

あきれた、としか言いようのない顔をしている咲夜に問いかける。
帆香が凄い形相で睨んでいるのが怖い。
見てるこっちが怖い。

咲夜は幻覚でもみたのかなみたいに見なかったことにしている。

「今日そのセリフ言ったの私で何人目？」

「多分…20人近く…かな。」

あ。でも大丈夫！会長のためならどんなにムリしてでも予定あけるから！」

「いや。いいよ。違う女の子とデートしておいで。」

…ていつか仕事！たまってるよ？」

この話題もさらっと受け流した咲夜。

帆香の鬼の様な表情を見たということはもう記憶に無いかの様に振る舞っている。

やはり昔からずっとこれだから慣れてしまったのだろう。

そう。俺達は幼なじみ。

それで昔っから咲夜の取り合いをしていた。

これが俺たち生徒会の日常…だなんて信じたくない。
いつか咲夜との関係が発展すればいいのに。
ただの幼なじみのままはもう嫌だ。

この二人以外に新しい天敵が増える。
このときの俺はまだそれを知らない。

1 ページ目 (2) Side 蓮也 (後書き)

はい。駄作ですね。
文才が無くて悲しい。

今回は蓮也くんターンで生徒会メンバーを無理矢理だそう！
みたいな感じでした。
次からも2話構成で中心人物を変えていろんな話やりますよ キラッ
頑張らなきゃー

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1431z/>

青蘭学園生徒会日誌

2011年12月7日23時45分発行